

暗闇に浮かぶ蓄光タイル

小松市今江町の建材メーカー「イケガミ」が、夜間や災害時の安全確保に役立ててもらおうと、暗闇で光るセラミック製のタイルを開発した。太陽光や蛍光灯などから光を蓄えるため、歩道などに埋め込めば半永久的に使用できるという。池上茂雄社長(左)は「暗闇の中での道しるべにしてほしい」と話している。(青山直樹)

小松の「イケガミ」開発

開発したのは「セラミック蓄光タイル」という商品。主に丸形と角形があり、暗闇の中で水色に光る。歩道などの両脇に埋め込めば、夜間でも道筋がはっきりと分かる。タイルは貼り付けることもでき、非常口や

一時停止を示すタイプもある。駐車場や階段の縁、山岳地帯などでも使用できるという。

開発に五年ほどかけ、昨夏に完成して今春から販売を始めている。セラミック内に蓄光材としてリンを混

ぜ、自然光や蛍光灯などあらゆる光を蓄える。同社によると、従来品より発光時間が長く、太陽光なら約二十分で蓄光し、十時間ほど光る。耐久性に優れ、配線工事が不要で、維持管理の必要がないのも利点という。

タイルは小松市などに納入し、既に市内のことも園などで使われている。同社は太陽光で充電して夜間に点灯するロードコーンを、昨年七月の西日本豪雨の被災地・岡山県倉敷市に寄贈するなどしている。池上社長は「光は人の不安を和らげてくれる。タイルが地域の防災に役立てば」と話している。

セラミック製 「地域防災に役立てて」



①暗闇の中で水色に光るタイル「イケガミ」提供 ②イケガミが開発したセラミック蓄光タイル「小松市今江町で」

